

## シュローダー グローバル市場見通し

2018年  
10月

マルチアセット運用チームによる各金融市場の月次見通し

見通しの表示：++強気、+やや強気、0中立、-やや弱気、--弱気  
矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ




株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
			
<p>市場の焦点となってきた米中貿易摩擦への過度な懸念が和らぎ、個別のファンダメンタルズ（基礎的条件）が見直されると考えています。また、バリュエーション（価値評価）も以前に比べ改善してきたと判断されるため、見通しをやや強気へと引き上げています。</p>	<p>総じて底堅い経済環境や、インフレ圧力の緩やかな上昇を背景とする金利上昇が想定されるため、やや弱気の見通しを維持しています。一方、最近の金利上昇を受けて、バリュエーションの観点では適正水準に近づいてきたと考えています。</p>	<p>企業のファンダメンタルズの観点において、レバレッジの上昇が散見されることから、やや弱気の見通しを継続します。</p>	<p>世界的に良好な経済環境がコモディティ全体を下支えすると考えています。多くの商品に見られる需給バランスの逼迫が、価格の上昇圧力となると見えています。</p>




資産クラス	分類	見通し
株式	米国	 底堅い景気や良好な企業収益が継続が下支えすると見られるため、見通しをやや強気で維持しています。
	欧州	 世界株式を下回る動きになると見えています。貿易摩擦問題や欧州中央銀行(ECB)による金融引き締め等の懸念材料が散見されるため、見通しを中立で維持しています。
	日本	 企業業績の改善が見られ、バリュエーション（価値評価）の観点でも相対的に魅力的な水準にあるため、見通しをやや強気へと引き上げています。
	アジア太平洋（除く日本）	 貿易摩擦問題が一時的な成長の下押し要因となる可能性があると考えます。また米ドル高も、企業収益の押し下げ要因と考えられるため、中立の見通しを維持しています。
	新興国	 バリュエーションの観点では、これまでの株価の調整をうけて魅力度が高まっていると判断しています。また、企業収益の改善が見込まれるため、やや強気の見通しを維持します。

資産クラス	分類		見通し
国債	米国		これまでの金利上昇をうけて、バリュエーションは以前に比べ適正水準に近づきつつあると考えますが、やや弱気の見方を継続します。また、貿易摩擦に伴うリスクや米国債の需給バランスを勘案すると、今後長短金利差が拡大する可能性があると考えられます。
	欧州 (ドイツ国債)		市場では、欧州中央銀行(ECB)による利上げが、2019年後半あるいは2020年前半まで後ずれすると織り込まれており、金利は依然として割高な水準にあると判断しています。一方足元金利が上昇基調にあることから、今後の動向が注視されます。
	新興国 (米ドル建て)		新興国のファンダメンタルズには格差があるものの、総じて企業収益が拡大基調にあることから、新興国社債を新興国国債に比べて選好しています。
	新興国 (現地通貨建て)		景気のリスク要因が散見されることから動向を注視しつつ、見通しを中立で維持しています。バリュエーションが改善しているものの、見通しの引き上げには、もう一段の不透明感の払しょくが待たれます。
	インフレ連動債		季節要因等による短期的な下押し圧力も想定されますが、中期的には物価上昇圧力が高まると見られるため、インフレ連動債についてはやや強気の見方を維持しています。
投資適格社債	米国		企業活動の活発化が見られる中、一部企業ではレバレッジの上昇等のファンダメンタルズの悪化が注視されるため、やや弱気の見通しを維持しています。
	欧州		足元のスプレッドは長期的な水準より若干開いている上、欧州域内の政治リスクが高まっているため、やや弱気の見通しを維持しています。
ハイイールド社債	米国		バリュエーションの観点で割高感があり、今後の脆弱性が注視されることから、やや弱気の見通しを維持しています。
	欧州		欧州のハイイールド市場は、金融政策の正常化に伴い、金利に上昇圧力が掛かるとみられるため、やや弱気の見通しを維持しています。

## シュローダー グローバル市場見通し

2018年  
10月

資産クラス	分類	見通し	
コモディティ (商品先物)	エネルギー		原油については、供給不安を背景に、価格には押し上げ圧力がかかると考えられるため、やや強気の見通しを維持しています。
	金		米ドルとの逆相関が見られるなか、当面米ドル高となる可能性が考えられることから、やや弱気の見通しを維持しています。
	産業用金属		中国においてインフラ投資の拡大が見込まれることや、当局が企業活動を後押しする政策を取ると考えられることから、産業用金属への需要は底堅く推移すると見ており、価格を下支えすると考えます。

資産クラス	分類	見通し	
通貨	米ドル		米ドルには割高感があると判断しています。但し、世界的な景気減速や政治的リスク上昇の際には、安全資産である米ドルの選好が見込まれると考えています。
	ユーロ		欧州では、景気減速懸念が払しょくされず、域内の政治リスクも高まっているため、見通しをやや弱気で維持しています。
	日本円		底堅い国内景気と緩やかな物価上昇から今後の金融政策への影響が考えられ、日本円には追い風になると考えられます。また、海外景気が弱含んだ際にも、日本円は安全通貨としての選好が見込まれるため、見通しを強気へと引き上げています。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレージョン・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

**【本資料に関するご留意事項】** 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダーplcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号

加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会